

9 決まりを守って生活しよう

*道徳性・規範意識の芽生え
*自立心
*言葉による伝え合い

<危なくないように一緒にしよう > 3歳・5歳 I期

ねらい ◎3歳 園の生活に慣れよう 5歳 経験をいかして年長児として見本を示そうとする

○楽しく安全に遊ぶために必要な決まりを自分たちでつくっていく

○異年齢保育で同じクラスの3人。年少児Aは入園したばかりで園内のいろいろなことに興味をもち、なんでもやってみようとする。まだ危険なことを判断できないため危なっかしい場面もあり、その姿を年長児が見守り、思いを汲み取りながら一生懸命かかわっている。



○Aは年長児の心配をよそに自分のしたいことにどんどん挑戦し、ついてくる年長児のことを嫌がることもある。
○年長児はそんなAと根気強くかかわり、危険のないように見守りながら遊ぶ。
▲年少児のやりたい気持ちを汲み取りながら、危険にならない範囲を考えて年長児が配慮しようとしている。

★異年齢児への関わりを通して、優しくしたりされたりする経験を積み重ねる。
▲やりたい気持ちを支えることで年長児としての自覚をもつ。
△安全に留意しながら年少児への関わりを見守る。



○5歳児の木登りする様子を見ておもしろそうと感じた年少児が、木登りに挑戦しようとする姿を見守り、自分たちの経験をもとにアドバイスしている年長児。
△これまでの3人の関係性や行動を考慮して、できるだけ幼児の力で解決できるよう見守る。
▲年長児は「危ないから禁止」とするのではなく年少児にとってどこまでが可能で、どこからが危険なのかを自分たちの経験から推測し、できる限り年少児の思いを汲み取りながら安全に過ごすための決まりを自分たちでつくっている。

遊びの中の豊かな学び

- 友だちとの関わりや集団の活動の中で、心地よく生活したり、楽しく遊んだりするために「決まり」の必要性に気付き自ら「決まり」をつくって守ろうとする
- 自分の経験をいかして、年少児の気持ちを推測したり年少児にとっての危険を予測したりする（年長児）
- 実際に経験することで危険やそれを防ぐための決まりの必要性を知る（年少児）

評価の観点

- 教師から一方的に決まりを与えるのではなく、幼児が主体的に、活動に向けて「決まり」を決めて活動できているか
- 決まりを守ったことで、楽しい、心地よいと感じられているか